

8 学校アクションプラン

令和6年度 桜井高等学校アクションプラン — 1 —			
重点項目	学習活動		
重点課題	・自主的・意欲的な学習態度の育成と学習時間の確保		
現 状	・授業はまじめに受けているが、予習や復習を含めた自主的・意欲的な学習時間の不足が見られ、学習活動の計画、実践、定着が望まれる。 ・専門学科では各種検定に向けた演習を積極的に取り組んでおり、一定の成果をあげている。		
達成目標	①【普通科生徒対象】 学習時間(平日)が2時間以上の生徒の割合 80%以上	②【土木科生徒対象】 測量士補試験・2級土木施工管理士試験の合格率 それぞれ90%以上	
		③【生活環境科生徒対象】 家庭科各種検定の合格率 90%以上	
	方 策		
	・学習についてのアンケートを通して、現状を把握し、家庭学習の意義や必要性を促していく。 ・ICT機器の活用等、授業改善に一層取り組む。 ・総合的な探究の時間等を活用し、主体的な態度を育成する。		
達成度	①6月と11月に実施した調査における平日の学習時間が2時間以上の生徒の割合は学年別で次のとおりである。 1学年 2学年 3学年 全体(昨年度) 6月 72% 85% 71% 76%(78%) 11月 75% 82% 74% 77%(85%)		②測量士補(3学年) 75%(100%) 土木施工管理技士 63%(91%) ③家庭科技術検定 98%(99%) ()内は昨年度
	具体的な取り組み状況		
・学習の記録や考查結果等をふまえ、担任、副担任を中心に定期的な面談を行い、家庭学習への意識付けや学習習慣の確立に向けて検討した。 ・他教科も参観できる互見授業を開催し、授業改善の参考になるようにした。		・放課後補習、個別指導、朝学習での課題学習、専門講師による講演・講習を行った。 ・外部模試2～3回(専門学科の各学年)、公務員模試4回(希望者)、企業就職模試3回(希望者)等を実施した。	
評 価	D 生徒の学習時間が2時間以上の割合が6月76%、11月77%と目標を達成できなかった。3年生が昨年度より大幅に減少した。	C	・土木科の測量士補の取得率が前年を下回った。 ・生活環境科は保育・被服・食物の様々な検定に挑戦している。
学校関係者の意見	2年次よりも3年次の方が割合が低くなっていることは残念である。原因を認識し、方策の見直しや調査期間を増やすなど調査方法も含めて検討が必要と考える。		・土木科と生活環境科を一つの指標で括るのは無理があると思われる。 ・アンケートに教育クラウドサービスを利用し、生徒の実態を把握していることは素晴らしい。
次年度に向けての課題	調査項目の検討と調査回数を増やし、先生方とタイミングよくデータ共有して活用することが必要である。		過年度と比較しながら検定や資格の取得者数を増やすことと、合格率を上げていくことを目指す。また、生徒自身の目標設定、達成度を数値化する。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和6年度 桜井高等学校アクションプラン — 2 —			
重点項目	学校生活		
重点課題	・挨拶の励行と制服の品位ある着こなし ・SNS等の正しい使い方		
現 状	・明るく挨拶をする生徒が多いが、その一方で挨拶をしないなどの社会人としての基本行動がとれない生徒もみられる。 ・制服のクールビズ期間において、上着の自由選択を設けた。何種類もの着用パターンが可能になったため、集団としての統制が崩れないよう制服の着こなしを指導していく必要がある。 ・SNS等に安易に画像や個人情報をインターネット上に公開する行為が見られる。また、誹謗中傷などのトラブルが発生している。		
達成目標	①挨拶運動（登校指導）にて社会性を身につけさせることと品位ある制服の着こなしの意識を高める機会を設ける。		②SNSについてその危険性を理解しながら活用していると答える生徒の割合。
			90%以上
方 策	・制服については、清潔感や整った外見の重要性を理解させ、自ら考えて判断し行動できる主体的な態度を育成する。 ・HR等で学校生活・制服のルールやマナーを守る意義について考えさせる。		・全校集会やHR、ネット安全教室などでSNSの正しい使い方やネットの危険性を指導する。 ・生徒会や生活向上委員会には「スマホのルール作り」を考えてもらう。また、保護者等に協力してもらい、家庭での使用ルールを考えてもらう。
達成度	・一日の始まる挨拶を明るくできる生徒が増え、校内での挨拶も活発である。 ・主体的な態度を養う機会を設けたため、ほとんどの生徒は指導されることもなく、爽やかな着こなしができています。		・危険性について学んだ事があると答えた生徒は約86%であった。学んだ機会の内訳は、学校が100%、保護者が17%、テレビが32%等であった。また、学習形式でトラブルの実例・対策を紹介してほしいという意見があった。
具体的な取り組み状況	・毎朝の登校指導で挨拶意識の高揚を図り、服装のチェックも同時に行った。 ・制服の着こなしの指導に関しては、具体的に着こなし方を図示したことや、初めて1学年対象に「着こなし講座」を行いソーシャルスキルや礼儀を学んだことで、ほとんどの生徒はきちんと制服を着用している。		・全校集会では安易なSNSへの投稿による被害や高額アルバイトの危険性について指導した。また、1学年には外部講師を招いた「ネット安全教室」を開催し、安心安全な使用のモラル・マナー、トラブルの対処法について学んだ。 ・生徒会は「スマホのルール作り」のアンケートを行った。案を土台にしてHRで生徒全員による話し合いまでには至らなかった。
評 価	B	冬季期間における制服の着こなしについて、保護者や生徒からの意見への対応を協議し、全教職員で共通認識を持った。	C 危険性への理解は示しつつ、SNS等に関して個人情報の掲載、グループ内での無視や仲間外しなどが引き続きある。
学校関係者の意見	・「着こなし講座」を通して生徒自ら考える場があることは素晴らしい。 ・挨拶は社会人になって人とのかかわりがうまくできるかという点でも大切なことと思う。		・SNSの危険性等や生徒会が取り組んでいる「スマホのルール作り」については継続的に指導していただきたい。 ・SNSの危険性については、保護者向けに学ぶ機会を設けてはどうか。
次年度に向けての課題	毎朝、あいさつ運動を兼ねて行っている登校指導を縮小化する予定であり、それが原因で服装の乱れが起こらないよう、指導部・学年・学科が情報交換を定期的に行うことが必要である。		ネット上のマナーやモラル、いじめの防止策などをHRの時間で話し合わせたり、外部講師の講演などを効果的に活用したりして危険性の理解を指導することが大切である。

（評価基準） A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和6年度 桜井高等学校アクションプラン — 3 —			
重点項目	進路支援（進路について関心を高め、進路目標実現を支援する）		
重点課題	・進路目標の早期明確化と実力養成についての効果的な手法の確立 ・組織的かつ計画的な生徒の実態把握の推進		
現 状	・学習の記録や面談によって生徒の実態把握に努めているが、進路目標の設定ができず、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができない生徒がみられる。 ・受験を意識した学習に取り組む始める時期が遅く、学習時間が不足している。		
達成目標	①全生徒が進路や学習について複数の教員と面談し、進路目標実現に向けて考える機会		②卒業時点で在学中の進路についての学習や取り組みが自分の成長に役立ったと考える生徒の割合
	1・2学年 年間5回以上 3学年 年間10回以上		80 %以上
方 策	・生徒の学習状況や行事の振り返りシートを学年や関係者で共有し、生徒の現状把握に努める。 ・担任、副担任以外の教員も面談に当たり、生徒が多く教員と関わるように努める。 ・学年や関係者で生徒の情報交換ができる場を設定し、生徒一人一人に対する個別指導をより充実させる。		
達成度	・各学年の面談回数の平均(R5, R4) 1学年 3.2回(4.9回, 4.0回) 2学年 3.8回(3.1回, 5.5回) 3学年 7.2回(11.5回, 5.8回) ※面談として回数に含めるかどうかについては生徒と教員の認識の違いも考えられる。 ・5回以上面談をした生徒は全校の27%(49%)で昨年より減少したが、全校で昨年同様90%以上の生徒が「面接が役に立っている」と回答している。		
具体的な取り組み状況	・年間を通して適切な時期に面談を複数回実施し、生活面や学習面について現状把握に努めた。 ・3学年の進路指導に関しては今年度も1人の生徒に複数の教員が関わっている。		
評 価	D	回数にかかわらず面談を肯定的にとらえる生徒は多いが、進路や学習外の問題への対応に多忙な年度でもあった。	B
学校関係者の意見	面談の回数の目標が5回以上というのはよいと考える。面談シートなどを利用して教員と生徒で面談結果等を共有されてはどうか。		
次年度に向けての課題	面接の実施方法や担当者を学年と検討しながら、効果的な面接の回数の確保と質の保証の研究を継続する必要がある。		

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和6年度 桜井高等学校アクションプラン — 4 —			
重点項目	特別活動		
重点課題	・部活動の活性化 ・ホームルーム（HR）活動の充実		
現 状	・今年度から県の「部活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に則って部活動への加入は強制していないが、部活動の加入率は昨年度とあまり変わっていない。活動状況も高い水準を保っており、安全・安心な部活動運営に努めている。 ・HR活動では、生徒の自主性を尊重し、主体的な活動になる内容を模索している。		
達成目標	①部活動に対する自己達成度		②HR活動が学校生活の充実につながったと感じる生徒の割合
	80%以上		80%以上
			③HR活動に積極的に参加した生徒の割合
			80%以上
方 策	・部長会議等を通じて、各部の部長に対しリーダーとしての自覚をもたせる。 ・各部員たちが必要な課題を話し合い、安全で適切な部活動ができるよう取り組んでいく。		・HR活動の内容の例を示し、計画させる。 ・計画、運営、振り返りができるよう記録 用紙を活用させる。
達成度	①部活動に対する自己達成度 82% （とても頑張った 38% 頑張った 44%） ・不十分と答えた生徒は 7%。 ・昨年度までは「部活動に対する満足度」を達成目標にしており、満足度は 68%だった。		②HR活動に対する充実度 72%（68%） （とても満足 20% 満足 52%） ③HR活動に積極的に参加 85%（84%） ※（ ）は昨年度
具体的な取り組み状況	・部長会議で集団活動の意義や必要となることを伝え、他部員への課題解決を図った。 ・各大会に向けての壮行会を行うことで、志気を高めさせるようにした。 ・年末には部室や使用場所の大掃除を行い、環境整備をした。		・健康や防災、進路設定や学習の進め方などの講話および芸術鑑賞を実施し、自己の成長およびキャリア形成を考える活動を行った。 ・レクリエーションは各学期に1回とし、討論や発表、調べ学習など様々な活動を計画させた。
評 価	A	・休まず参加し目標に向かって真剣に取り組んだ、技能を向上させ成長できたと答えた生徒が多かった。 ・不十分だった理由としては、結果を残せなかったからという前向きな意見が多数だった。	B ・クラスによって活動に差がある。 ・自由度やクラス内での交流が少ないことへの不満や、他のクラスと交流したいという要望があるが、比較的高い満足度であった。
学校関係者の意見	・リーダーを養成する指導を通して、部長や部活動運営をサポートすることは大切なことだと思う。 ・生徒が積極的に関わり満足感が得られるような活動の工夫に関し継続的に取り組まれることを望みます。		・近年は、地震や豪雨などの災害も頻発しているため、学校周辺の地域防災に関する学習、体験を取り入れてほしい。 ・HR活動も互見授業を実施し、他のクラスの活動を見合って意見交換をされるといいと思う。
次年度に向けての課題	来年度もこの達成目標を継続し、さらに部室の適切な割り振りや運営面でサポートできるように工夫したい。		学校生活をよりよくするために、学校行事と絡めた生徒主体のHR活動になるように活動計画・運営を検討していく。

（評価基準） A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和6年度 桜井高等学校アクションプラン — 5 —			
重点項目	その他		
重点課題	図書館利用の活性化		2 学年研修旅行の充実
現 状	- 貸出数・利用者数は増加傾向にあるが本を借りる生徒の固定化している。 - 文学的文章以外の新書や専門分野に関連する本の貸し出し数が伸びない。		進路設計に向けて、生徒の関心・意欲を高めることを目的としている。この研修は、生徒の進路希望状況や各科の専門性も考慮したうえで企画・立案し、実施している。
目 標	年間貸出数 1,600 冊以上		・進路に対する関心・意欲が高まった割合
	年間利用者数 3,300 人以上		80 %以上
方 策	- 図書委員会活動を充実させ、生徒が利用したくなる図書館の工夫を継続して行う。 - 黒部市立図書館との交流や研修を通して図書委員の資質向上を図る。 1・2 学年は HR でクラスミニビブリオバトルを実施し、本に対する興味・関心を高める。 - 進路学習や総合的な探究の時間などの探究活動の参照図書を充実させレファレンスを行う。		- 生徒の進路希望や適性、社会情勢などを勘案し、より最適な研修を立案する。 - 生徒が研修に対して目的意識をもって積極的に参加できるように、事前学習の時間を計画的に位置づけ、指導する。 - 進路意識を高めるとともに、学習意欲と資格取得への意識が高まるように指導する。 - めまぐるしく変化する多様化社会を担う世代であることを意識させることができる活動なども取り入れる。 - 感染症の状況も踏まえ、安全な研修を検討していく。
達成度	年間貸出数 1,481 冊 (2025/2/28 現在) 年間利用者数 1,981 名		・進路に対する関心・意欲が高まったと答えた割合 普 91.0% 土 67.0% 生 83.0% 全体 86.1%
具体的な取り組み状況	- 黒部市立あお一よ図書館で年間 3 回の図書委員の研修を行い、企画の立て方や展示の仕方などを学んだ。 - 図書委員が中心となりクラスミニビブリオバトルを 1・2 学年で実施した。日頃読まない分野の本に興味・関心を持った生徒が多数いた。		- 事前学習の時間を確保し、研修内容や移動手段などの計画の立案を指導した。 - 各学科において、個々に適した大学や企業を訪問し研修を受けることで、今後の進路を決めていく上で視野を広めることができた。 - 普通科では本校の卒業生との懇談の時間を設けたが、好評であった。
評 価	C	授業での利用が少なく、目標が達成できなかった。	B 目標は達成したが、その後進路意識が継続できていない生徒もいる。
学校関係者の意見	- 幅広い分野の書籍に触れることができる機会の提供を検討していただきたい。 「あお一よ」の市立図書館での研修は素晴らしい。		- 研修旅行で得た経験や刺激を取り戻す機会があればよいと考える。 - 保護者への啓蒙の機会も増やされたらよいと思う。
次年度に向けての課題	図書委員会を中心に地道な広報活動の頻度を増やして行っていく。クラスビブリオバトルは継続させていきたい。		- 事前学習の際に保護者へのインタビューなどを行うことも考えたい。 3 月の特別授業で研修授業の振り返り、まとめの発表を行ったが、行動を振り返るだけでなく、自分の考えの変化も発表できれば良い。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった